

鹿児島県高等学校野球連盟・大会細則（平成20年3月～）

この大会細則は、日本高等学校野球連盟・九州地区高等学校野球連盟の大会規約・細則を基にして定めたものです。各大会は、大会役員、審判委員、補助役員等の積極的協力と球場各係の献身的協力によってはじめて開催が可能となりますので、積極的に協力していただきたいと思ひます。

1. 試合規則は、年ごとの公認規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手の登録変更は、病気・ケガ等に限り医師の健康診断書を添えて、開会式までとする。
3. 大会期間中の不測の負傷又は疾病に対しては、応急手当を施すほか主催者はその責任を負わない。念のため健康保険証（コピーでも可）を持参すること。
4. 宿泊をするチームは、事前に宿舎名を本部に連絡する。
5. 大会出場校は、勝ち進んでいる間の練習試合はできない。但し、夏の選手権予選以外の大会での、敗者同士、県外との練習試合はかまわない。
6. 開会式に参加の責任教師・監督は、三塁側ベンチ前に整列すること。
選手は、高校生らしくはつらつとした態度で入場行進ができるよう各学校で練習しておくこと。
7. 第1試合の出場チームは、試合開始予定時刻1時間前には球場に到着し、その旨を大会本部へ連絡するとともにメンバー表（用紙は大会本部で準備）を受け取ること。
試合開始50分前に責任教師・主将は、本部役員・審判委員の立ち会いのもと本部席で攻守を決める。
8. 第2試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は5回終了時に行う（放送を行う）。責任教師と主将は、本部役員・審判委員の立ち会いのもと本部席で攻守を決める。選手はいつでも試合ができるように準備しておくこと。
9. オーダー用紙はフルネームで読み仮名まで記入する。同姓の場合は、名前を（ ）で囲むこと。
10. コールドゲームは4回半、もしくは5回終了時10点差。6回半、もしくは7回終了時7点差とする。但し、決勝戦はコールドゲームの適用はしない。試合延長回数は15回とし、引き分け再試合とする。
11. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とし、ベンチには登録の責任教師1名・副責任教師1名・監督1名・選手20名・記録員1名（女子でも可）の24名以内とする。
責任教師・副責任教師は帽子、ネクタイを着用する。（高野連スタッフシャツも可）
記録員は制服とし、グラウンドでの補助活動はできない。
監督は、選手と同一のユニフォーム・黒のスパイク又はシューズとする。サングラス等つけてはならない。
12. 球場への入場、球場内でのウォーミングアップ、オーダー用紙交換時は、試合用ユニフォームとする。（公式練習は、背番号付のユニフォームで行うこと）
13. 球場内におけるバッティングは禁止する。キャッチボール、トスバッティング、ノックに限る。
ランニング・ウォーミングアップ等で外野の芝生使用時は、アップシューズを使用すること。
14. 県立の屋内補助施設、市民補助グラウンドでの練習は、キャッチボール、トスバッティング、ノックに限る。市民球場の三塁側空き地、県立球場周辺広場での練習は禁止。
15. 手袋は攻撃時と守備の時は受け手のみ許可する。手袋の色は白または黒とする。ただし、投手は手袋をつけてはならない。走者も手袋の使用は認める。（手に持ってはいけない）
手袋に滑り止めのスプレー・クリームの使用は禁止する。違反した場合は、違反が発覚した時点からチーム全員の手袋の使用は禁止する。
16. ベンチ内のメガホンは1個とする。（監督が使用する）
ベンチからの声援は、自チームの士気を高める様な声援をする。
尚、補助員は両校で5名。（スイッチ2名、ボールボーイ2名、旗1名）
17. 試合前のシートノックについては、監督・責任教師・副責任教師および許可されたノッカーに限る。シートノックを担当するものは選手と同じユニフォーム・スパイクを着用すること。
四試合の場合は、サイドノックで行う。
また、定められた時間7分間（サイレンで指示）は厳守しなければならない。
18. 試合前ノックの補助員は5名以内とする。ただし、選手と同じユニフォーム・アップシューズ（白）・ヘルメットを着用する。補助員は、フェア領域には入れない。
19. 相手チームのノック中はベンチ内で観戦し、キャッチボール、ノック、素振り等してはならない。
20. 監督と選手は審判委員のジャッジに対して抗議することはできない。審判委員に対するアペールができるのは規則適用上の疑問をただすとき認められるが、主将、伝令、または問題の当事者に限られる。タイムの回数は攻・守それぞれ3回までとし、延長に入ったら1イニングにつき攻・守1回とする。審判委員の判定には絶対服従のこと。尚、選手の交代は主審に速やかに申し出ること。

21. 監督はベンチから出て指示をしてはならない。また、選手をベンチに呼んだ場合、タイム 1 回とみなされる。必要がある時は、控えの選手を伝令として、その意思を伝えるようにする。
22. 試合中、攻守の交代は迅速にさせる。(全力疾走)
23. 試合中、ベンチ裏にコーチ等が入り選手に指示・指導をしてはならない。
次チームはベンチ裏で静かに待機し、小窓等を開けてはならない。
24. 試合中のファールボールは攻撃側が責任をもって取りに行く。
ただし、守備側ベンチ付近・ライン際付近については、守備側も協力すること。
25. ベースコーチ・先頭打者となる選手は、攻守交代の際はベンチのミーティングに参加しないで直ちにコーチーズボックス・バッターボックスに入ること。
26. 打者がサインを見るときは、バッターボックスの中からバットを下ろして見る。
27. 投手が審判委員からボールをもらう際や打者が打席に入る際、帽子をとり「礼」をする必要はない。
28. 試合中、本塁付近のバット・マスクは審判委員が取り除くものでなく、次打者が守備妨害にならないように素早く取り除くこと。
29. 選手は、次打者以外はベンチから出ないこと。ウエイティングサークルでは、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止め、膝をついて低い姿勢で待機する。
30. マスコットバットの使用はかまわない。(バットリング、鉄棒、トレーニングバットの持ち込みを禁止する。) 金属バットや、用具に特別な細工等をしてはならない。
31. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用する。
捕手のスロートガードと急所カップの着用を義務付ける。
32. 投手のウォームアップ終了時、捕手がセカンドへ送球するボールに投手は注意する。
33. 投手のウォームアップ時に次打者が打者席付近に近づき、タイミングを測る行為は禁止する。
34. 二塁走者やベースコーチが打者に対して、捕手からのサイン(コースや球種)をジェスチャーや声で伝える行為は禁止。
35. ベースコーチが打者走者の触塁に合わせての「セーフ」のジェスチャーとコールは禁止する。
36. チームが守備につくとき、控え選手はベンチ前 2 m 以上出ないようにする。 攻撃の時の円陣もできる限りベンチの近くで行う。
37. 捕手は、座って投手の球を受けるときは必ず捕手用防具一式を着用する。
38. エルボーガード・レッグガードの使用は許可する。
39. 3回・7回終了時点で審判委員用の飲料水を準備する。
一塁側ベンチ ⇄ 1 塁・2 塁 三塁側ベンチ ⇄ 主審・3 塁
40. 5回終了時にグラウンド整備を実施する。両チームのベンチ入り選手(背番号をつけている選手7名)で内野の整備を行う。延長の場合は、9回終了後にも整備する。(2分間程度・ラインは引かない)
41. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは二組(4人)までとし、ゴロの捕球練習は認めない。
42. 勝者は、試合終了後直ちにホームプレート前に整列し、校旗掲揚に備える。
敗者は、ベンチ前に整列し勝者を称える。スタンドへのあいさつも速やかに行うこと。
43. 試合終了後は、ベンチを速やかに次試合チームに空け渡す。用具等は、ベンチ内の選手が持ち出す。
44. 最終試合の場合、自チームのベンチを清掃する。(勝者がスタンド清掃、敗者がグラウンドの整備)
チリはビニール袋に集める。(各チームの責任教師は、作業の指示・確認を行う)
45. 県外との試合では、校名入りのユニフォームとする。ツートンでの練習試合は禁止する。
46. 責任教師または副責任教師が付けば、一日に複数の練習試合は可能とする。
47. 第2試合以降の試合開始時刻は、予定時刻の30分以前からは行わない。

[応援団について]

1. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
2. 応援団の横断幕・のぼり等はスタンド後面に立てること(スタンド前面での金網使用は禁止)。
3. ユニフォーム姿の部員はスタンドでメガホンの使用を認めるが、網を叩いたりグラウンド内に物を投げ込んだりしてはならない。
4. 個人名を記入したノボリ・大漁旗・テープ、紙ふぶきは禁止する。
5. 「来たときよりも美しく」の心で応援席を汚さない・壊さない。チリはビニール袋に入れて持ち帰る。
6. プラスバンド以外の太鼓については、和太鼓・洋太鼓いずれか1個とする。
市民球場でのプラスバンド・応援太鼓の使用は禁止する。
7. 応援は高校生らしい品位と節度を持ったものでなければならない。